



ダンスを外から見つめる・語る（仮）

企画案

ダンス井戸端会議

□ ダンスシーンの未来を考える

近年、若手のコンテンポラリーダンサーやダンス関係者にはコミュニティや集う場所がとても少なく、悩みや相談、熱い論議など、創造力が循環し、刺激をしあえる場が必要に思う。

また、キャリアパスが描きづらくなっている昨今、先輩方のケーススタディや同世代同士の知見を共有していくことで、創造力豊かなダンスアーティストが生まれる土壌を作ることができる。

▶ このような考えから、ダンサーたちがサロンのように、立場の上下関係なく集える場を作り、狭義のダンスに留まらない広い視野や、新しい取組のアイデアが生まれる、自由闊達な共有の場を創出したいと考えている。

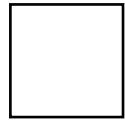
そして、自ら発信し、ひろく伝えていく力をつけるスタートの段階を仲間と共に身につけていくことが、ダンスの環境を良くしていく第一歩になるのではないかな。



Concept

ダンスを外から見つめる・語る
(仮)

ダンサーの集まる場 × 外からの視線の獲得 × 記録していく力



ダンサーが集まる場を作って見えてきた課題



ダンス井戸端会議とは
立教大学の映像身体学科卒業・在学の有志たちで集まり雑談をする会。2018年10月発足以来、月一回のペースで開催。
当初、東京ではなかなかダンサー同士が繋がる場がなく、まずは身近なメンバーでダンスについて考える会を開こうと雑談会からスタート。今年に入り、舞踊史や関連学問などの勉強共有会としても機能しており、立教外のダンサーも数人加わるようになっていく。そのため所属メンバーは、20-30代の、学生、フリーランスのダンサー、カンパニー所属ダンサー、制作、劇場関係者など15名ほどが毎回ゆるく参加している。

<ダンス井戸端会議を2018年より実施して、見えてきた課題>

- ・所属を問わず集まれるコミュニティや場が少ない。
- ・上演や制作に際して相談、実験しようと思った時に気軽に聞ける場がない。孤独。
- ・上演情報にはじまり、思考→制作→発表の際のノウハウなど、それぞれの知見、情報が共有されづらい。
- ・稽古など忙殺され、ジャンルを越えた繋がりや実験などに乗り出しにくい。
- ・自力で調べてもキャッチアップできる情報が少なく、キャリアを考える上で困ることが多い。
- ・なかなか自分の言葉でダンスを語る機会がなく、「分からない」と言いづらいため、言語化することに苦手意識がある。アーカイブが苦手。



□ 実践していききたいこと

① ダンサーの集まる場

- ・ 紋切り型の講座形式や、とりとめのない交流会・雑談会ではなく、ゲストを含め参加するメンバー全員が対等な立場で、安心して参加でき、自由に発言し対話できる場をつくる。
- ・ 長期的、継続的に開催し、ダンサーのよりどころとなる場をつくる。

② 外からの目線の獲得

- ・ 狭義のコンテンポラリーダンスの領域の外の方たちとの対話を通して、異なった分野とのコミュニケーションの取り方や、繋がり方を参加者それぞれが模索する。

③ 記録していく力

- ・ ダンサー自身が書く・記録していく・伝える技術や態度を身につけていく



□ ダンスを外から見つめる・語る（仮）

メインの活動としては、5回連続のプレゼン+質疑応答を行う。各回終了後に全体の記録、及び参加者それぞれのレポートを提出。

